産業報國運動に關する覺書斷片

廣瀬健一

一

從來、資本家と勞働者は經濟的に利害對立し絶對に協力しえざる所の關係に置かれてゐると云ふ社會通念が支配的であつたことは何人も知る如くである、然るに日支事變勃發するや、滿洲事變勃發當時より徐々に崩し來つた傾向がこゝに劃期的發展を遂げ産業報國勞資一體の叫びは工場に鑛山に亦有識者の間に於て、勃然として展開せらるゝに至つたのである。日支事變後の諸々の事實は之を物語るものであり、その集中的表現こそ外ならぬ産業報國運動であることは云ふまでもない。

二

協調會に於て、本年二月二日發會せられた時局對策委員會はもとより、この勞資關係の調整のみを或はそれを中心として審議究研することを豫定してかゝつたものではない。協調會に於ても、却つてこゝに難なき問題であることを確信するが故に、より審重な態度をとるべきであると考へた程である。

然るに委員會に於ては俄然勞資の問題をまづ第一に審議項目に採擇する必要が強硬に主張せられ、第二專門委員會は自らに課せられた審議項目三箇中本問題を第一に採擇するに至つたのである。委員會は既記の如く、資本家團體、勞働者團體、會社の勞務管理當事者諸官廳、陸海軍、その他斯界における有數なる專門家を、凡そ、出來るだけ廣範圍にお集りを願つたのであるが、その顔ぶれは最初からこの問題に就て、まとまることを豫定してお集りを願つた譯ではなかつたのであつて、却つて、むしろ大議論がおこり、拾收が付かなくなると豫想せられる惧れすら多分に各方面で豫想した程であつたのである。だが、この可能最大限の範圍に於て、專門的權威者全員の會合に於て、既記の如き勞資關係調整方策が全員一致決定せられた。議事進行過程に於ても全員殆んど缺席者なく、公務多忙の方々も亦長時間熱心に研究審議され、遂に、常識的な豫想や危惧が全く單なる杞憂であり、錯覺であることを明白にした次第である。

このことは、一體何を意味するか。深く考へなければならぬ點は單なる外交辭令的一致ではなく又權力による無理押しの、或は作爲的一致でもない所の、この事實こそは實に日本の直面しつゝある時局の現實的狀勢の然らしむる所であると云はなければならぬ。

日支事變勃發直後、近衛內閣は各方面の有力者を招き、率直に事態の眞相を語つて端的に時局に關し擧國一致方を要請した。そしてそれは過去のすべての政治的感情的行懸りを捨てゝ、未だ不充分なりとは云へ、擧國一致體制確立の端緒的効果を收め、對支軍事行動の徹底的敢行の國內準備を確保したのであるが、これは勿論近衛內閣の政治的能力に歸すべきではなくして、日本の直面する危機的事態に對する日本國民の本能的行動の然らしめた所と云はるべきである。これと全く同じことが勞資關係の問題に就て云ひ得るのであつて、もしこの産業報國運動の展開なかつたとすれば、却つて、むしろ大議論がおこり、拾收が付かなくなると豫想せられる惧れすら多分に各方面で豫想した程であつたのである。だが、この可能最大限の範圍に於て、專門的權威者全員の會合に於て、既記の如き勞資關係調整方策が全員一致決定せられた。議事進行過程に於ても全員殆んど缺席者なく、公務多忙の方々も亦長時間熱心に研究審議され、遂に、常識的な豫想や危惧が全く單なる杞憂であり、錯覺であることを明白にした次第である。

このことは、一體何を意味するか。深く考へなければならぬ點は實にこの點にあると思はれる。

單なる外交辭令的一致ではなく又權力による無理押しの、或は作爲的一致でもない所の、この事實こそは實に日本の直面しつゝある時局の現實的狀勢の然らしむる所であると云はなければならぬ。

日支事變勃發直後、近衛內閣は各方面の有力者を招き、率直に事態の眞相を語つて端的に時局に關し擧國一致方を要請した。そしてそれは過去のすべての政治的感情的行懸りを捨てゝ、未だ不充分なりとは云へ、擧國一致體制確立の端緒的効果を收め、對支軍事行動の徹底的敢行の國內準備を確保したのであるが、これは勿論近衛內閣の政治的能力に歸すべきではなくして、日本の直面する危機的事態に對する日本國民の本能的行動の然らしめた所と云はるべきである。これと全く同じことが勞資關係の問題に就て云ひ得るのであつて、もしこの産業報國運動の展開なかつたとすれば、却つて、むしろ大議論がおこり、拾收が付かなくなると豫想せられる惧れすら多分に各方面で豫想した程であつたのである。だが、この可能最大限の範圍に於て、專門的權威者全員の會合に於て、既記の如き勞資關係調整方策が全員一致決定せられた。議事進行過程に於ても全員殆んど缺席者なく、公務多忙の方々も亦長時間熱心に研究審議され、遂に、常識的な豫想や危惧が全く單なる杞憂であり、錯覺であることを明白にした次第である。

このことは、一體何を意味するか。深く考へなければならぬ點は實にこの點にあると思はれる。

單なる外交辭令的一致ではなく又權力による無理押しの、或は作爲的一致でもない所の、この事實こそは實に日本の直面しつゝある危機認識と同時に、日本的秩序の新たなる創造（同時にそれは再建であるが）への本能的衝動による。

産業報國運動展開の經過の本質は右の如くであつて、この時局對策委員會が始めから、産業報國運動展開を豫定し目指して始められたものであるのではないかと云ふ結果から原因を推論する考へ方や、右の如き說明が協調會の責任廻避であるとなす、議論に對しては事實がその誤りを指摘する所である。

だが、それだからと云つて協調會はこの運動を以て時局の重壓をとそれは實に日本國民の本能的衝動に歸せしめて、その波のまにまに動かうと云ふ安價な他力本願的な考へをもつてゐる譯でもなく、又さう云つた自己慰安を敢てなす譯では斷じてない。むしろそれが危機的事態における日本の一大飛躍斷行の非本線に沿うものであり、日本國民の三千年の傳統に即する維新の一環をなす運動の端緒であり部分であるとの認識に基き、協調會はこゝに斷乎たる決意を確立し、敢てこの運動の雜役夫たらんとする熱意に燃えてゐるのであつて、微力を日本國家にさゝげんとする心構へに於ては敢て日本國民の一人たるの自覺に立つものである。

三

日本の現に直面する危機的事態の本質に關してはこゝで喋々するを要しない。又それでよいと考へる態度こそは實は日本に對する害毒である。全國民の自覺に基く自發的な國民運動こそ正しく絶對に必要である。それこそが眞の擧國一致の基礎であり、この國民運動の統一意思と國家の意思とが統合され、しかもそれが全體的に即ち現代的に統一されるばかりでなく三千年の歷史を通じて統一されるべき所に、日本の危機突破と大飛躍の基礎があると考へる。權力によつて簡單に事が行はれるとなすが如き機械的考へ方を捨つることが必要であつて、權力に强權の發動によつて事がなし得たのは却つて國民運動の潛在的意思と合致したからに外ならぬ。

かゝる意味に於て商業報國運動は産業人全體の自覺に基く自發的な國民運動であつて、國家興隆の經濟的基礎たる産業の飛躍的發展へに於ては敢て日本國民の一人たるの自覺に立つもの、又、擧國一體を産業部面において實現せんとする運動であり、産業全從事者の總意と國家の意思を合一統合せんとする運動なのである。

右の如きがこの運動の本質であるが、かゝる運動が、既記の如き經過によつて今正に展開せられんとしつゝあるのであつて、その前途には横たはる幾多の難關とその克服運動展開上の諸方法との運動と他の國民運動との聯關、國家意思との具體的な連結の方法とその構造或は運動の指導精神の深刻なる學問的基礎けと、現下の內外狀勢の要請規定等々の問題について、今はこれを割愛し敢て運動展開の經過並びに運動そのものの本質に關し簡單に述べて、今後の一資料たらしめんとするものである。

× ×

協調會ニュース

東京本部

静岡縣事業主講習會

五月二十七、二十八兩日静岡縣吉原町に於て静岡縣工業協會と共同主催を以て君津郡鹿野山神野寺に於て開催す。參會者中小工業主又は勞務擔任者約五十名同寺に宿泊す。

厚生省給木事務官の「勞務管理の心得」「疲勞關係官より「現代思潮の動向」「工場衞生」勞働保護法規等に付講演あり。

勞務者懇談會

六月四日午後六時より本會に於て例會開催す。出席者約三十名。芝浦製作所三井寛錦氏の講演「勞務管理者の心持」を中心に懇談同九時散會す。

國民體育研究會

六月一日、十一日、二十一日國民體育研究會例會を開催す。

仙臺鑛山監督局管內勞務

六月二十六日仙臺鑛山監督局に於て管內産鑛山協議會開催を機として本會より長谷部事務官、坂本殖託出席、鑛山に於ける環境整備問題に付懇談せり。

環境整備指導

六月二日及同二十七日より四日間福島縣下へ、六月九日より三日間大阪府三重縣下へ、六月十四日……坂本殖託出張。

榮養食指導

六月二十四日遠賀縣へ住田殖託出張

映畫宣傳

一、映畫班（トーキー）出張、六月十日より十日間京都府、六月十八日より十日間大阪府、六月廿八日より十日間兵庫縣、六月廿九日東京市。

一、フヰルム貸付狀況

六月六日より七日間

静岡縣工業懇話會

六月二十日より三十一日間

愛媛縣工場研究會

六月二十日より三十一日間

愛知縣工場會

六月十日より三十一日間

東京工場協會

六月二十二日より二十一日間

長野縣工場懇話會

六月三十日より八日間

佐賀縣保安課

六月二十五日より十六日間

福島縣工場協會

六月二十九日より九日間

三重縣工場聯合會

六月十八日より二十三日間

岡山縣工場協會

六月六日より四日間

東京右川島造船所

六月二十九日より二日間

三菱相川鑛山

六月十五日より三十三日間

南滿洲鐵道株式會社

六月二十日より十八日間

香川縣工場協會

六月十七日より十四日間

日立鑛山

六月二十九日より三日間

川崎造船所

六月二十九日より二日間

樺太大平鑛業所

六月二十六日

福島縣入山健保組合

出版

月刊社會政策時報、産業組利協調、勞働時報、健康保險時報、産業組利ポスター

安全日誌、健康診斷票、安全週間題旨書、同要綱、同從業員心得、同豆本

同綴葉書

徒弟問題研究會

第四回會議

一、日時　六月三日午後五時

一、場所　協調會

一、議事　恭榮殖工業成の急務と其の理由に付き引續き審議

一、出席者　宮島清次氏、山口貫一氏、鵜島瑞夫氏、大內經雄氏、左右田武夫氏、土屋貞藏氏

一、時日　六月十日正午

一、場所　協調會

一、議事　引續き「恭榮工業成の急務と其の理由」に就き審議

一、出席者　山口貫一氏、玉城肇氏、大內經雄氏、左右田武夫氏、中島仁之助氏、土屋貞藏氏

第六回會議

一、日時　六月十七日

一、場所　協調會

一、議事　「恭榮工業成の急務と其の理由」並に自主的産業聯合會の建議に就き審議

一、出席者　山口貫一氏、玉城肇氏、鵜島瑞夫氏、大內經雄氏、左右田武夫氏、土屋貞藏氏

第七回會議

一、日時　六月二十四日午後五時

一、場所　協調會

一、議事　「恭榮工業成の諸方法」に就き審議

一、出席者　山口貫一氏、鵜島瑞夫氏、玉城肇氏、阿部興氏、大內經雄氏、氏、左右田武夫氏、土屋貞藏氏

圖書館（圖館日數一六日間）の閲覽者、總數は八九名、內本會職員五二名、從業者、會社、工場職員八名、研究團體調査員十名、勞働組合關係者、同名夫九名、會社、工場職員八名、研究團體調査員十名、勞働組合關係者、二名、教授學生六名、其他二名の內譯「閲覽冊數二九七冊、借出冊數八八冊」

大阪支所

第七十二回社會立法協會

大阪委員會

下村委員長挨拶會開催の件

一、日時　六月六日午後五時半

一、場所　大阪市北區堂ビル　清交社

一、出席者　飯島幡司氏外十七名

一、經過概要

午後六時松村幹事開會の挨拶を述べ米穀幹事より勞働委員三名（大阪府保健部長藤原九十郎氏、大阪商船々務課長近藤復氏、大久藏造鐵工所長大月久治氏）の入會承認を求め全員贊成す。

次いで武藤健氏司會の下に新補委員長の歡送迎の辭あり、懇談に移る。

食後下村補委員長を中心に一時間に亘つて物價對策問題に就て意見の交換をなし午後九時散會す。

第廿四回三都會

一、日時　六月十四日午後五時—九時半

一、場所　大阪市北區堂ビル　清交社

一、講師並題目

改正職業紹介法並に勞力需給問題に就て

大阪府職業課長　近藤復氏

大阪府職業課長　那須　時夫氏

一、出席者

鐘淵紡績株式會社淀川支店平賀恒次郎氏外三十一名

一、經過概要

大宮雨にも不拘定刻に集合、松村支所長より開會の辭並に近藤復氏を紹介す、同氏より一時間二十分に亘つて改正職業紹介法に就て說明あり、食後那須時夫氏を中心に質疑應答あり午後十時盛會裡に散會す。

協調友の會、西會六月例會

一、日時　六月十六日午後六時半—八時半

一、場所　大阪市北區堂ビル　清交社

一、講師並題目

一、會場　社團法人國民會館小講堂

一、講演　非常時局と放送

大阪中央放送局長　岡正雄氏

一、出席者　二十五名

一、概況　まづ松村協調會大阪支所長より開會の挨拶あつて後、關講師は非常時局に於ける放送の特殊性、海外放送について興味ある講演をなし終つて、質問懇談を遂げた。

一、備考　因みに本會は特に社會問題講座と合同開催した。

勞務管理研究會堺支部六月例會

一、日時　六月十七日午後二時—八時

一、場所　大和川染工所　常設會館

一、講師並演題

一、强制貯金と愛國貯金の奬勵に就て